

■主な経歴

1987（昭和62）年3月
・北海道立札幌医科大学医学部医学科 卒業

1987（昭和62）年4月
・札幌医科大学第四内科

1987（昭和62）年12月
・旭川赤十字病院内科

1988（昭和63）年8月
・札幌医科大学第四内科

1989（平成元）年4月
・増毛町立市街地診療所所長

1989（平成元）年6月
・国立がんセンター内視鏡部

1990（平成2）年1月
・羅臼町立国保病院内科

1990（平成2）年7月
・札幌医科大学第四内科

1991（平成3）年4月
・洞爺協会病院内科医長

1992（平成4）年5月
・札幌医科大学第四内科

1993（平成5）年4月
・新日鉄室蘭病院消化器科

1994（平成6）年7月
・札幌医科大学第四内科

1995（平成7）年4月
・札幌医科大学第四内科医局長

1996（平成8）年4月
・小樽掖済会病院内科医長

1996（平成8）年10月
・札幌医科大学第四内科

1997（平成9）年2月
・長沼町立病院内科

1997（平成9）年6月
・札幌医科大学第四内科

1997（平成9）年10月
・洞爺協会病院内科医長

1998（平成10）年10月
・清田病院消化器科医長

2001（平成13）年11月
・清田病院消化器科部長

2009（平成21）年4月
・清田病院副院長

2013（平成25）年7月
・札幌清田病院（名称変更）副院長

■資格認定

- ・医学博士
- ・日本内科学会総合内科専門医
- ・日本消化器病学会認定指導医
- ・日本消化器内視鏡学会指導医
- ・日本肝臓学会専門医
- ・日本がん治療認定医機構がん治療認定医・暫定指導医
- ・日本医師会認定産業医
- ・P E G ・在宅医療研究会専門医胃瘻造設者・管理者・認定胃瘻教育者

医師確保が課題 地域医療の充実を

市立病院が抱えている課題について「以前は30人を数えた常勤医が、現在は20人と減少しており、医療

奨する『地域包括ケア』の理念を実践することが重要です。しかし、厚生労働省の地域包括ケアでは、『誰が』『何をするか』という具体的なことが示されておらず、今後取り組んでいくためにはたくさんの課題もあります」と話しています。

ニーズに応えるためにも、経営的にも医師の確保が最大の課題であり、病院の生命線を握っていると言っても過言ではありません」と話し、「大学からの医師派遣能力が大幅に低下しており、こうした中で選ばれる病院になるためには、『地域医療が充実している』『勉強できる』『自分自身で実践できる』など医師にとっても魅力ある病院づくりが必要です」と解決策を語っています。

さらに「産婦人科での帝王切開手術の受け入れ再開など少しずつではありますが、基本的な医療の充実が図られています。私は『医療は地域で完結することが望ましい』と考えていますので、留萌医療圏を担う市立病院として、地域から頼られる病院を目指したいと考えています。そのためには人材育成と環境整備に積極的に取り組み、職員一人ひとりが充実して働ける環境づくりに努めます」と今後の目標を話しています。

「地域医療の置かれている状況は、非常に厳しいものがありますが、市立病院の理念『地域にねぎした信頼される病院』を目指し、全職員と共に皆さんの期待に応えるべく、全力を尽くします」と語っています。

特集

問 市立病院・総務課 ☎ 49-1011

市立病院の村松博士・ 新院長を紹介します

4月1日付で就任した村松新院長に市立病院の今後の展望について伺いました。



市立病院の誇りを継承 「生命と健康を守る」

村松博士・新院長は「大変な重責だと感じており、身の引き締まる思いです。市立病院が今まで築いてきた誇りを継承しながら、より良いものにできるように一步ずつ努力したいと考えています」と抱負を語っています。

「市立病院の院長として、温かく受け入れてくださった地域の皆さんには、本当に感謝しています。私も内科外来の診察を週2回担当しますので、『地域の皆さんの生命と健康



むらまつ ひろひと
村松 博士 新院長

公平公正なスタンスで 「前向き」に努力する

市立病院の現状や職員の取り組みについて「マンパワーが十分ではない現状の中、留萌医療圏の救急医療の大半を担い、救急搬送の受け入れに対応しています。これは、医師や看護師をはじめ、各職員がそれぞれ

を守る」という市立病院の役目を果たし、『市立病院に行けば大丈夫だ』『あの病院なら安心して診てもらえる』と皆さんに言っていただけのように頑張っていたんですね」と笑顔で話しています。

努力しているたまものであり、やる気のある人材ばかりであることを反映しているものだ、非常に感心しています」と評価しています。

「私は、病院の事業管理者として、公平公正なスタンスで常に『前向き』に取り組むことを肝に銘じています。改善点はそれぞれの分野や職種で必ずあるでしょうから、職員の声に耳を傾け、建設的な意見を少しずつ実現させ、より良い病院を目指していきたいと考えています」と今後の方針について話しています。

「地域包括ケア」の実践

「日本医師会による医療と介護の需要予測では、2010（平成22）年を100とすると、2025年は全国平均で医療が91、介護が114と予想されていますが、留萌医療圏では医療が112、介護が146と、いずれも増加すると予想されています。これは、高齢化が進む留萌医療圏では、病気を治療した後のケアや介護を必要とする方が多くなるということを示しています」と留萌医療圏の見通しについて語っています。

また、「このため厚生労働省が推